http://www.jaaso.or.jp/

JAあそだより

平成28年2月

熊本に春の訪れ告げる「JA植木まつり」（県農業公園カントリーパーク）

■今号12ページ　主な内容

- ●2016年仕事始め式／農事組合法人「黒流」設立総会
- ●熊本県農業コンクール大会表彰式
- ●生産各部会の動き／JA阿蘇女性部フォーラム・家の光大会
- ●「ちゃぐりん感想文」／まるごとあそっ子スクール閉校式

ほか、JA阿蘇の話題を満載!!

2016 立春

VOL.85

JA 阿蘇農業協同組合

本所　〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111／FAX 0967-23-1088

職員一人一人が、誰のために仕事をしているのか、今一度、胸に刻んで業務にあたろう！

平成28年新年 祈願祭および仕事始め式

「祈願祭および仕事始め式」が1月6日、本所駐車場で行われました。

神事が厳かに執り行われた後、原山寅雄組合長が「暖かい新年を迎え、平穏な一年でありますことを願います。TPP問題では政府の大筋合意を受け国会議員の公約違反を追及し、国会での批准についても断固反対の姿勢は崩しません。農協法改正では外部監査が入ると膨大な費用が発生します。それぞれの部署、立場で責任感を持ってリーダシップを発揮してほしい。『農家所得の増大』では3月には中部の野菜集荷所施設が完成し、これを核として販売力を強化し、地域に合った、時代に合った変革を成し遂げるため、現場力・行動力・総合力を生かし、職員一人一人が何のために、誰のために仕事をしているのか、今一度胸に刻んで業務にあたって頂きたい。先ずは3月の決算に向け良い結びが出来るよう、役職員一丸となり頑張ろう」と力強く新年の決意を述べました。（写真右上＝厳かに執り行われた神事）

地域農業を維持・発展させるため 農事組合法人「黒流」設立

来賓祝辞を述べる原山寅雄組合長

阿蘇市の黒流町集落営農組合は12月2日、阿蘇市のホテルで農事組合法人「黒流」の設立総会を開きました。

同集落営農組合では経営の効率化・多角化を進め、収益の確保や地域農業の安定化を図ってきましたが、個々の農家の努力だけで採算を確保することが難しく、加えて、農業者の高齢化や後継者不足などに直面しています。

そこで、意見交換会や勉強会を開き協議を重ね、今回の農事組合法人設立となりました。今設立時の組合員は32人（32戸）、経営規模は98haです。

総会には組合員や関係者ら約60人が出席、定款や役員選任など3項目の議案がすべて可決されました。

来賓として出席した原山寅雄組合長は「農協と一緒になり、知恵を出し合い、所得の向上はもちろんのこと、潤いのある農地作りを目指してほしい」と新たな船出を祝いました。

正月休み返上で「春の七草」出荷 ＝小国郷七草部会＝

JA阿蘇小国郷七草部会は1月初め、正月休み返上で「春の七草」の収穫と出荷に追われました。小国郷地区は1988年に「小国郷七草部会」を立ち上げ、現在6戸が3.5haで栽培しています。2015年度は、九州をはじめ北海道・関東・関西などへ約24万パック（前年同）を出荷しました。

指導担当の橋本健太郎職員は「正月休み返上の出荷作業となったが、これからも産地としての責任感を持って取り組んでいきたい」と話していました。（右写真＝出荷作業に追われる生産者）

JA阿蘇園芸連絡協議会「ジュニア野菜ソムリエ研修会」開催

JA阿蘇園芸連絡協議会は2月3日、一の宮中央支所で「ジュニア野菜ソムリエ研修会」を開催しました。当日はソムリエの資格を取得した女性や阿蘇振興局・JA関係者ら15人が参加。

今後、野菜ソムリエ者として阿蘇農産物をどのようにしてPR、消費拡大に繋げていけるのかについて研修会が行われました。研修会では県内でただ一人、野菜ソムリエ資格の最高峰であるシニア野菜ソムリエ資格者の持田成子先生が、阿蘇農産物の特徴や生産者の強みを活かした販促方法について講演を行いました。講演後は参加者全員で意見交換会をしました。（写真上＝研修会の様子、写真下＝研修会参加の皆さん）

熊本県農業コンクール大会 JA阿蘇管内から3農業者と1団体が表彰される

主催者挨拶をする蒲島郁夫知事

平成27年度(第56回)熊本県農業コンクール大会表彰式が1月28日ホテル熊本テルサで行われました。

同コンクールは、自らの農業経営・技術の改善に積極的に取り組む県内の優秀な農業経営者や集団を表彰し、併せて県民への農業理解を図り、農業・農村の振興に寄与する目的で昭和35年から開催されています。

JA阿蘇管内からは、次の方々が表彰されました。(カッコ内は住所・主な品目など。功績は「大会資料」による)

「経営体部門＝優良賞・特別賞」 斉藤孝幸さん (阿蘇市＝夏秋トマト)

地域部会で一番の規模で経営を行うとともに、データに基づいた簡易養液土耕栽培技術を確立。多くの就農希望者の受入育成、独立後の支援を行い担い手の育成に尽力している。

経営体部門優良賞・特別賞の斉藤さん

「新人王部門＝優良賞」 荒牧光博・慶子夫妻 (高森町＝肥育牛・繁殖牛)

新人王部門優良賞の荒牧さん

「食と農部門＝優良賞」 ㈲阿蘇健康農園＝原田大介さん (南阿蘇村)

南阿蘇産の農産物や品質の高い加工品を地元で販売することで、「阿蘇」ブランドの商品開発による認知度の向上や観光施設との連携など、地域の活性化に貢献している。観光農園での交流活動、研修生の受入も行う。

食と農部門優良賞の原田さん

農業系大学を経て平成18年に就農。阿蘇の草資源を活用した繁殖肥育一貫経営を実現し、肥育素牛の確保、周年放牧等でコスト削減を行う。徹底した観察による繁殖成績と肥育成績の向上を実現している。

「地域貢献賞」 前鶴義博さん(西原村)

西原村農業協同組合代表理事組合長などの役員を務め、地域農業の発展に尽力。役員退任後は農業者として地域の中心となり、新規作物として万次郎かぼちゃの導入、生産、普及拡大に取り組み特産化に貢献。近年は西原村農業振興連絡協議会会長として後継者育成等に尽力。

地域貢献賞の前鶴さん

くまモンも登場した表彰式のひとコマ

2015年締めの高値取引
＝小国郷家畜市場＝

手セリを見守る繁殖農家の河津哲文さん

ＪＡ阿蘇小国郷は12月5日、小国郷家畜市場で2015年の最後を締めくくるセリ市を開きました。当日は県内外の肥育農家やバイヤーらが、体形・血統・発育などを見極め次々とセリ落としました。

最高値は子牛黒毛和種（去勢）でキログラム単価は2491円。1頭当たりの畜種別平均キログラム単価は子牛褐毛和種2069円（前年比387円高）。子牛黒毛和種2356円（同440円高）。成牛黒毛褐毛723円（同149円高）。子牛乳用交雑1039円（同135円高）。成牛乳用交雑352円（同33円高）で合計80頭が上場されました。

担当の河津職員は「2015年最後のセリ市において、セリ機の故障で慣れない手セリとなり、関係者に大変ご迷惑をおかけしました。先行き不安が大きい中でのセリ市でしたが、関係各位のご協力とご指導のお陰で前年を上回る高値取引となりました」と話していました。

目標販売高3億5000万円
新ネーミング『絹おとめ』で
他産地と差別化はかる
＝西原甘藷部会＝

ＪＡ阿蘇西原甘藷部会は12月11日、2015年産貯蔵甘藷出荷協議会を西原村で開き、生産者ら約80人が参加しました。2015年産の出荷は9月中旬より始まっていましたが、貯蔵甘藷が本格的な出荷を迎える年明けを前に各等級や出荷要領の確認をしました。

広瀬国昭部会長は冒頭の挨拶で「計画出荷を行うことで消費地から信頼を得る産地となる。同時に生産者の意見も大事にして部会一丸となって頑張っていきたい」と述べました。

同部会では約40年にわたって「高系14号」を栽培。しかし、競合産地の増加で販売単価の低迷等があり、4年前から試験栽培を実施し、秀品率や食味に優れる「シルクスイート」への品種転換（約9割）を決めました。同品種は絹（シルク）のように滑らかな舌ざわりと甘み（スイーツ）の強さが特徴で、他産地との違いを出しブランド化を図るため「絹おとめ」とネーミングしました。2015年産の出荷計画は数量1600t、販売高3億5000万円を計画しています。

滑らかな舌ざわりと甘みの強さが特徴『絹おとめ』

写真上＝挨拶をする広瀬部会長
写真下＝出荷規格等の説明を聞く生産者

贈答に大好評、赤土育ち自然薯
＝久木野自然薯部会＝

2015年産の自然薯出荷が12月より本格的に始まりました。久木野自然薯部会では20数年前から自然薯栽培を始め、高品質及び粘りのある自然薯によって、固定客を増やしてきました。近年は県内外の消費者からの注文も多く、遠くは関東からも注文があり、昨年末にはお歳暮の商材として使用され、好評を得ました。（写真＝出荷される自然薯／昨年12月10日撮影）

アスパラ部会反省会・総会
消費地が求める商品作り
出荷・販売額ともに前年上回る

ＪＡ阿蘇アスパラ部会は12月８日、阿蘇市で２０１５年産出荷反省会、及び総会を開催しました。当日は生産者ら約１２０人が出席。２０１５年産の販売実績報告や情勢報告、成績優秀者表彰が行われました。

山部修部会長は開会挨拶で「消費地からの意見や要望をしっかりと聞き、選ばれる産地作りへの取り組みを今後も継続していきましょう」と述べました。

出荷反省会では、栽培管理上の反省点や改善点について担当の後藤真智指導員より説明が行われました。

２０１５年産における出荷実績は、出荷数量５８３万１０２３束（前年比１０５％）、販売金額６億５６５８万３５５４円（同１０８％）、平均単価１１２・６円（同１０２％）。

２０１５年産の成績優秀者は、次の方々です。（敬称略）

▽ＪＡ表彰（総販売高）笹原順子
▽部会表彰（総販売高）西村豊治・田上博康・古澤博幸
▽同（栽培技術）室治夫・山口ヒサカ・佐藤春生
▽同（技術躍進）興呂木大輔
▽同（新人賞）吉岡祐一
▽同（特別功労賞）山部修

写真上＝山部部会長の挨拶
写真中＝生産者の皆さん
写真下＝成績優秀者表彰

販売額、過去最高を記録
中部ミニトマト部会

挨拶をする小西部会長

ＪＡ阿蘇中部ミニトマト部会は12月18日、２０１５年度総会及び反省会を阿蘇市で開き、部会員や市場・ＪＡ関係者ら35人が出席しました。

２０１５年度産は、出荷数量５万４０８５ケース（１ケース３kg＝前年比１４４％）、販売金額８４５９万円（同１５５％）となり、過去最高の実績となりました。要因としては、部会員４人の加入と販売単価の前年比１０８％があげられています。

小西孝浩部会長は「本年度も厳しい栽培環境の中、出荷量増大に向け生産して頂き、また、行政・市場・ＪＡ共に生産販売向上に協力して頂いたことに厚くお礼申し上げます」と挨拶。

市場関係者からは「３kgバラ詰めの出荷形態は、業務用の需要が最も多く小売店での評価も高い。市場入荷は減ってきているが、ＪＡ阿蘇の産地は前年比から見ると１２０％のシェア」と評価する意見が寄せられました。

次年度より新規部会員の加入も予定されており、更なる産地作りを目標に生産者一人一人が生産意欲の向上に燃えています。

総会では基本方針を確認

アスパラ部会総会では２０１５年度事業報告等10議案が承認・可決されました。山部部会長は「生産者一人一人の努力があったので目標を達成することができた。今後も安全安心な品物を生産者一丸となって作っていきたい」と決意を述べました。

２０１５年産については、栽培管理講習会の実施、販売促進活動の積極的な展開等で消費者へ安全安心な「阿蘇アスパラ」を届けることが出来たことが報告され、２０１６年産については反収アップ、経営分析による生産指導、販促キャンペーンによる産地と消費地との情報交換強化などを基本方針として確認しました。

阿蘇農業に新たな活力を！「ニューファーマー激励会」

就農体験を語る山下さん

阿蘇ニューファーマー激励会が11月26日、阿蘇市のホテルで開催されました。同激励会は新規就農者の円滑な農業経営と仲間づくりを進めることを目的に、本年度、阿蘇地域で新たに就農した19人のほかに、各市町村・ＪＡ阿蘇・阿蘇４Ｈクラブ員ら41人が出席しました。

主催者を代表し阿蘇地域振興局農林部長の宮本英明さんが「近年の新規就農者は増加傾向にあり、阿蘇地域においても毎年約20人が就農している。様々な人とのネットワークを築き、新たな阿蘇の農業・農村の活力になって頂くために、就農者の定着と育成を重要課題とし、各関係機関とも連携し支援していく」と挨拶しました。

就農体験発表では先輩２人が行い、西原村の山下義博さんが「両親の農業をする姿を見て、妻の後押しもありサラリーマンを辞め、就農３年目を迎えた。特産品である甘藷を妻と二人で毎年増やし、現在は180ａと万次郎カボチャを栽培。就農当時は朝から晩まで働き、休日も取れなく体力的にも限界があったが、周囲の協力があり今日に至っている。就農して良かったことは、自分のやりたい仕事ができ、努力した結果が自分に跳ね返る。今後の目標はいろいろな技術を習得し、品質の良い甘藷を栽培し地域を代表する担い手になりたい」と体験談を語りました。

また「４Ｈクラブ員プロジェクト活動」の特別発表や関係機関の支援策説明も行われ、終了後には新規就農者を歓迎する親睦会も開かれました。

葬儀受付コンテスト九州大会 優秀賞にＪＡ阿蘇の小野寿人職員

初開催となる「２０１５年度葬儀受付コンテスト九州大会」が11月30日、熊本経済連で開催されました。同大会は福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・鹿児島６県の各葬儀協会共催で、各県大会の最優秀賞者６人が出場しました。

熊本県からはＪＡ阿蘇購買部葬祭係の小野寿人職員が出場。各選手は葬家を訪問し喪主役から葬儀に対する意向などを聞き出し、葬儀までの打ち合わせなど日頃の接客対応を披露しました。

審査は農流研・全農・各県葬祭協議会役員ら11人が、マナー・気配り・心配り・接遇対応能力・情報収集能力・基礎知識などについて行い、小野職員は見事「優秀賞」に輝きました

優秀賞の小野職員（写真左）

→日頃の接客対応を披露する小野職員

『ＪＡ阿蘇百年の計』が優秀賞 宅野幸大職員、未来塾で発表

熊本中央会主催のＪＡ戦略型中核人材育成研修会『未来塾』の修了レポート発表会が１月８日、ＪＡ熊本教育センターで行われ、小国郷中央支所金融課融資係の宅野幸大職員が『ＪＡ阿蘇百年の計』と題して「人間力で選ばれるＪＡを目指して、今後ＪＡとしてどう取り組んでいくのか」について研修成果を発表しました。審査の結果、宅野職員は優秀賞に輝きました。

この研修会は、今後のＪＡ運営を担う中核となる人材を継続的に育成することを目的に、各ＪＡから推薦された研修生14人が昨年５月から10回、延べ25日間の研修を受けてきました。

当日は各ＪＡの常勤役員や上司など91人が参加。７分ずつのプレゼンテーション形式で、研修生はパワーポイントを使い、ＪＡがとるべき戦略やその実践具体策を力強く発表しました。

写真上＝プレゼンテーションをする宅野職員、写真左＝優秀賞受賞の宅野職員

女性部フォーラム～家の光大会～「加工品コンクール」表彰や「活動報告」「ちゃぐりん感想文」発表など多彩な催事を行う

第13回ＪＡ阿蘇女性部フォーラム～家の光大会～が11月30日、阿蘇市のホテル角萬で開かれＪＡ関係者ら250人が参加しました。

開会に先立ち、オープニングセレモニーでは女性部とフレッシュミズによる「農のファッションショー」が披露されました。阿蘇の景観をプリントした衣装をまとい、モデルさんがさっそうと登場すると、華やかな衣装に会場は拍手と歓声に包まれました。

昨年9月に開催した「加工品コンクール表彰式」も行われ、大和とよ子女性部長より最優秀賞の鞭馬志津子さんら8人に表彰状と記念品が贈られました。

「家の光」普及活動では南阿蘇と蘇陽の両支部に、「ちゃぐりん」普及活動では高森支部と同支部フレッシュミズに家の光協会から感謝状が贈られました。

主催者挨拶で大和部長は「女性部の基本方針である『ＪＡ女性　心をひとつ　今をつむぎ　次世代へつなごう』とあるように、未来の子供たちに日本の食と農の大切さを伝え、地域につながる活動に取り組んでいきましょう」と述べました。

恒例の「ちゃぐりん感想文」発表では、阿蘇小４年の甲斐真優さん、阿蘇西小４年の原住宙くん、古城小４年の三村和香さんが、それぞれステージで感想文を朗読すると大きな拍手が寄せられ、大和部長から表彰状と記念品が贈られました。

活動発表では二の宮支部と小国郷支部が日頃の体験や活動内容を話しました。

講演では佐伯市地域振興課の食育推進・男女共同参画係の柴田真佑さんが『食べることは生きること～泣ける！笑える！食育のススメ～』という演題で、食を通じて「いのち」を見つめ直し、学校や職場、家庭や地域に笑顔が広がる食育や防災、被災地支援活動について語りました。（写真上＝「農のファッションショー」）

写真上＝主催者挨拶をする大和とよ子部長
写真中・下＝支部員の活動や取り組みを紹介するクラフトや展示パネル

女性部フォーラム～家の光大会～会場の様子

『ちゃぐりん感想文』

「戦艦ヤマト・最後の乗組員」を読んで

阿蘇小学校4年
かい　まひろ

この話は、戦争中の戦艦大和という日本のためにがんばって戦ってくれた船の物語です。

わたしがこの物語を選んだ理由は、去年の五月に広島のくれ市にある大和ミュージアムに行って初めて戦争のこわさやつらさについて知りました。そのことをもっといろいろと知ってほしかったからです。

この物語の中でわたしが、一番心を打たれた部分は「がんばって生きるんだぞ」という章題のところです。

三月の終わりごろ、くれに上陸した八杉さんは、お母さんに会いにきてくれて、とてもうれしかったと思います。乗船する前の「体に気をつけてなぁ。体に気をつけてなぁ。」というお母さんの言葉がうれしかったと思います。でも、八杉さんはふり返らずに行ってしまいます。どうして八杉さんはふり返らなかったのか、わたしはこう思います。「お母さんの顔を見てたら悲しい。もう大和に帰れない気がした」からだと思います。それでも、海軍に教えられた、「死んだらいかん。おまえ達が死んだらだれがこの国を守るんだ」という言葉で国や家族を必ず守る、と言う意しが強かったと思います。

そして海に出てしばらくすると、てき軍の飛行機が飛んで来て、大和にこうげきして、大和は大きなばく発を起こし、ばく発で死んでしまった人もいます。

わたしがここを読んで考えたのは、なぜ戦争があったのか、戦争がなかったら死ぬ人もいなかったのにということです。

その後、「助けてー」と言いながらおぼれていた八杉さんを上官の川さき高射長が助けてくれます。高射長は、八杉さんはまだわかくずっと元気で生きていけると思い助けたのだと思います。八杉さんもとても感しゃをしていたと思います。わたしには、他の人を、助けたり出来ないので、川さき高射長はとてもやさしい人だなと思います。そして、八杉さんは、同じ軍の船に仲間とともに助けられます。ですが、高射長は自分から大和のしずんだ方へ泳いでいきます。八杉さんは、あの自分を助けてくれた人がいなくなってとても悲しかったと思います。

わたしもこの部分を読んで一ばん悲しかったです。もし、また戦争が始まり、わたしの家族が一人でもいなくなったら、心の一部がなくなったように悲しくなります。もしかしたら、八杉さんもこのような気もちになったのではないかと思います。

わたしが行った大和ミュージアムには、戦艦大和のもけいや写真がありました。他にも戦争に行った人たちの置き手紙や、せんとう機、魚らいなどもあり、とてもこわかったです。それに「一つの花」という物語などでも、戦争について考えました。八杉さんの経験のこわさや、どれだけ悲しかったか分かりました。なのでわたしは、戦争はどの国でもやってはいけないと思います。

「ちゃぐりん」を読んでチャレンジしたこと

阿蘇西小学校4年
原住　宙

ぼくは、ちゃぐりんで、「こっかく標本をつくろう」というページを見つけました。ぼくはもともときょうりゅうがすきなので、このページにきょうみを持ちました。自分で標本が作れるとは思わなかったのでとてもわくわくしました。ぼくは、これを夏休みの自由研究にしようと決めました。用意する物や、作り方が、とてもていねいに、説明してありました。ぼくはさっそくお母さんに話をして、必要な物をいっしょにそろえました。こっかく標本を作るには二日間かかります。ほねをきずつけないように、身とほねをていねいにはさみで、とりのぞきます。これはむずかしい作業でした。ほねをきずつけないようにするのがとても大へんでした。さっとお湯でにて、ほねのまわりにのこった肉を魚のほねぬきやピンセットで取りのぞきます。そしてジッパーつきのぽりぶくろにパイプせんじょうざいと水を入れ1時間おいてから、またのこった肉をピンセットでとりのぞきました。

ほねをまっしろにするために、オキシドールに、手羽さきのほねを入れ6時間ほどおきました。すると真白な手羽さきのこっかく標本ができました。自分で作ったこっかく標本は、とてもきれいでした。きょうりゅうはく物館にかざってある標本も同じ方法で作ってあるのかなと思いました。次回は、手羽元のこっかく標本を作ってみたいと思います。

「戦艦大和・最後の乗組員」

古城小学校4年
三村　和香

わたしは、この話を読んで戦争はおそろしいなと思いました。十五才で戦争に行かないといけないなんて、とてもつらいことだと思いました。わたしのお兄ちゃん、浄兄ちゃんは今、十五才なので浄兄ちゃんくらいの時に、戦争に行かなきゃいけないなんて、わたしだったら、ぜったいに、行くのがいやで泣くと思います。

だけど、やすおさんや、他の人たちは、いやでも、行かなければならなかったので、かわいそうに思いました。

わたしが、心にのこったところは、戦争に行く前にお母さんと、わかれた所です。母の「体に気をつけてなぁ」という声が、二度もきこえたけど、ふり返りませんでした。ふり返ったら、大和にもどれない気がしたのです。という所がとても悲しかったり、つらかったと思うからです。

やすおさんが乗った戦かん大和がしずむ時に、おぼれかけたやすおさんを上宮の川さき高射長が、自分が持っていた丸太を差し出して、「お前は、若いんだからがんばって生きるんだぞ」といって助けてくれたところが心に残りました。その上官の川さきさんは、部下が助かったのを見とどけると、大和がしずんだ方角に向かって泳ぎ去っていったそうです。

わたしは、川さきさんは、どうして泳いでいったのかなと考えました。大和にいっしょに乗っていて、けがしたり、おぼれたりして海にしずんで行った仲間たちの所に行ったのかなと思います。やすおさんはそれを見て、自分を助けてくれた人に、死んでほしくないと思ったんじゃないかなと思いました。つらかったんじゃないかなと思いました。

やすおさんは、「多くの仲間が死にました。わたしは、自分で生きたのではなく、生かされたと思うのです」と言っていました。やすおさんが生きていたから、わたしは、戦かん大和に乗っていた人たちや、やすおさんの話を読んで知ることができました。読んでみて、戦争は、戦争はやってはいけないことなんだと分かりました。

戦争は、ころし合いで、命がなくなることだと思います。命がなくなるということは、一つしかないから、その命がなくなったら、その人の人生は、どんなに若くても終わってしまうということです。

一つしかない命が終わったら、周りの人たちも、とても悲しむということです。戦争は、ぜったいしてはいけないと、強くおもいました。

贈答にも大人気の「レンジ芋」昨年のお歳暮で約15tを受注
JA阿蘇小国郷甘藷部会

「レンジでチン」するだけで、栄養満点なヘルシー食品「レンジ芋」

JA阿蘇小国郷甘藷部会は、贈答用としても大人気のレンジでチンして、すぐ食べられる「レンジ芋」の出荷を昨年12月上旬より始め、お歳暮シーズンだけで約15tの注文がありました。

2015年度は約30tの販売を計画し、同甘藷部会は5月から6月に品種「高系14号」を中心に、生産者10戸が約10haを作付けしました。収穫は11月中旬まで行い、専用貯蔵庫で30日以上保管し糖度を高めて出荷しました。今季は小ぶりのものが多く見られましたが、味は良く、消費者からは高い評価を得ました。

出荷初日(12月7日)、集荷場担当職員は注文主の伝票を確認しながら、559件(約4t)の発送を行いました。

取材時、担当の木下翔太職員は「お歳暮の意義を考えると、出荷時期は緊張の1ヵ月間となる。最後の1箱の発送が無事終わるまでは、緊張感を持って対応したい」と話していました。

まるごとあそっ子スクール閉校
全6回の食育体験カリキュラム
延べ200人が楽しく学ぶ！

JA阿蘇営農部は12月5、「まるごとあそっ子スクール」の閉校式を行い、あそっ子や関係者ら約50人が参加しました。当日は「ちゃぐりん」11月号を参考に簡単サツマイモピザ等の料理教室があり、あそっ子らは女性部スタッフの指導で3品の料理を作り、あそっ子らはJAのスタッフらと一緒に今期最後の食事会を行いました。

閉校式ではあそっ子卒業生代表の井川真希さんが「地引網やそば打ち体験が楽しく、とてもためになりました」と感想を述べました。（写真上＝閉校式に出席したあそっ子とスタッフの皆さん。写真右＝感想文の発表を行う井川真希さん）

阿蘇町中央支所が最優秀賞
JA阿蘇ロールプレイング大会

最優秀賞に輝いた阿蘇町中央支所の青木春奈・高宮浩一職員チーム

JA阿蘇は1月30日、阿蘇南中央支所で信用窓口担当者によるロールプレイング阿蘇大会を行いました。原山寅雄組合長や農林中金熊本支店の職員らによる審査の結果、最優秀賞には阿蘇町中央支所の青木春奈・高宮浩一職員チームが選ばれ、2月27日にウイング松橋で行われる「JAバンク熊本窓口ロールプレイング大会」に出場します。

優秀賞は次のチーム。（敬称略）井雪乃・鎗水祐司（小国郷中央支所）、三重野愛・町みどり（阿蘇南蘇陽支所）

優秀賞の阿蘇南蘇陽支所の町みどり・三重野愛職員チーム

優秀賞の小国郷中央支所の鎗水祐司・井雪乃職員チーム

「春のJA植木まつり」開催

熊本に春の訪れを告げる恒例の「JA植木まつり」が、2月22日まで県農業公園で開かれています。（表紙写真参照）

JA植木まつりは、生産者の技術向上や消費者との交流促進を図ろうと、昭和51年から始まりました。今年は「春実感！春の息吹と大地の香り」がテーマ。会場は、この植木まつりを心待ちにしていた多くの園芸ファンや観光客で賑わいを見せています。

税務署からのお知らせ「期限内納付と振替期日」

◇平成27年分確定申告の納付期限は、次のとおりです。
申告所得税及び復興特別所得税の納付期限　平成28年3月15日（火）
消費税及び地方消費税（個人事業者）の納付期限　平成28年3月31日（木）
納税は、お近くの銀行（日本銀行歳入代理店）などの金融機関（ゆうちょ銀行を含む）納税地を管轄する税務署の窓口で受け付けています。
また、申告所得税及び復興特別所得税並びに消費税及び地方消費税（個人事業者）の納税は、金融機関の預貯金口座から引き落としとなる「振替納税」が大変便利です。

◇振替納税の振替日は、次のとおりです。
申告所得税及び復興特別所得税の振替日　平成28年4月20日（水）
消費税及び地方消費税（個人事業者）の振替日　平成28年4月25日（月）
ご不明な点がありましたら、最寄りの税務署にお尋ねください。

阿蘇税務署（電話0967－22－0551）※自動音声案内

現金自動支払機（ATM機）の廃止のお知らせ

永年に亘り、ご愛顧賜りました現金自動支払機（ＡＴＭ機）において、組織整備に伴い、下記のとおり廃止となります。つきましては、管内利用の組合員・お客様におかれまして大変ご迷惑をおかけしますが、今後の取引につきましては、管内のＡＴＭ機をご利用いただきますようお願い申し上げます。尚、近隣のゆうちょ銀行ＡＴＭ機及びコンビニＡＴＭ機（時間内手数料無料）でのご利用も出来ますので、併せてお知らせ致します。

今後ともなお一層のご利用、ご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

１．利用廃止日　平成28年４月１日（金）　※平成28年３月31日（木）まで営業致します。
２．廃止ＡＴＭ設置場所及びＡＴＭ機　→ 阿蘇町中央支所管内　阿蘇町東部ＡＴＭ機
西原支所管内　河原支所ＡＴＭ機

※詳しい内容については、ＪＡ阿蘇各中央支所・支所へお尋ね下さい。

理事会・監事会報告

■平成27年度第11回理事会

日時　平成27年12月16日午後3時00分
場所　リバーサイドホテル熊本
1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
委員会報告（経済専門委員会・債権管理委員会）
11月末実績報告について
監事監査報告（平成27年度上期決算監査）について
　1）資産査定要領の改正について（案）
報告事項
　1)JA阿蘇経営分析結果報告書について
　2)平成27年度JA共済コンプライアンス点検結果及び改善方針の概要について
　3)平成27年度導入家畜等棚卸監査実施要領について
　4)年末年始休日の緊急連絡先について
　5)仕事納めに伴う支所巡回並びに新春の年賀について
　6)年末年始の業務等について
　7)2015JA阿蘇総合展示会実績報告について
　8)平成28年度JA阿蘇特別栽培米肥料・農薬基準について
　9)平成27年産米集荷実績について
　10)不祥事再発防止策取組状況（11月分）報告書について
4. 閉会

■平成27年度第12回理事会

日時　平成28年1月29日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
委員会報告（組織整備委員会、総務専門委員会、金融共済専門委員会）
委員会報告
12月末実績報告について
平成27年度決算監査期中改善指示書について
　1）平成27年度上期決算監事監査回答書について（案）
　2)固定資産減損会計グルーピングの一部見直しについて
　3)JAマイカーローン「輪　輪スプリングキャンペーン2016」の実施に伴うキャンペーン金利設定について（案）
　4)農業生産資金（農機具購入）および農機ハウスローン金利設定について（案）
　5)JA教育ローン「希望」キャンペーン実施に伴う特別金利の設定及び振込手数料の減免について（案）
報告事項
　1)平成27年度決算監査〔期中Ⅱ（資産査定等）〕の実施について
　2)不祥事再発防止策内部監査実施状況報告書（平成27年10月～12月）について
　3)不祥事未然防止の為の行動計画27年12月末進捗状況について
　4)平成27年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの進捗状況について（12月末）
　5)第2回アグリシードリース事業について
　6)県域ローンセンター媒介業務実績について
　7)平成27年度土・日事故受付状況について
　8)JA阿蘇農政連会費・WTO・EPA・TPP募金徴収実績について
　9)農機自動車展示会開催について
　10)平成27年度「JA－SS冬のお客様感謝キャンペーン」について
　11)JA阿蘇活動総合3ヶ年計画の27年12月末進捗状況について
　12)不祥事再発防止策取組状況（12月分）報告書について
4. 閉会

■平成27年度第11回監事会

日時　平成28年1月22日午後1時30分
場所　本所2階第1会議室
1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
　1）平成27年度導入家畜等棚卸監査実施要領について
報告事項
　①常勤監事業務報告について（11月、12月）
　②常勤会議報告について（第17回、第18回、第19回、第20回）
　③JA全国監査機構の監査法人化とJAの内部管理態勢について
　④不祥事再発防止策内部監査実施状況報告書について（平成27年10月～12月）
　⑤平成27年度期末監事研修会について
　⑥行事予定について
4. 閉会

厚生連ニュース

2月

ノロウイルスに気をつけよう

冬は特にご注意を！！

【ノロウイルスとは】

手指や食品などを介して経口感染し、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層で急性胃腸炎を引き起こすウイルス性の感染症です。

【流行時期】

年間を通して発生しますが、10月頃から流行が始まり12～1月にピークを迎えます。

【症状】

おう吐、下痢、腹痛、微熱などを伴います。通常、これらの症状が1～2日間続いた後に治癒し、後遺症もありません。乾燥にも強いため感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染・発症します。そのため、多くの人が集まる保育園、小・中学校、病院、老人ホームなどの施設で、人から人への感染します。従って、以下の感染予防に努めましょう。

予防方法

① 調理前、トイレの後はせっけんを使いしっかり手を洗いましょう。使用するタオル等は清潔なものを使用し共有するのは避けましょう。（特にノロウイルスが流行する冬場は、水が冷たく、手洗いが疎かになりがちです）

② 食品の生食はできるだけ避け（特に生カキや二枚貝）中心部まで十分加熱しましょう。感染性をなくすには食品の中心温度85℃以上で1分間以上の加熱が必要です。生鮮食品（野菜・果物など）は十分に洗浄しましょう。

③ 便や吐物には大量のウイルスが含まれているため、処理の際には手袋やマスクを着用しましょう。

④ ノロウイルスにはアルコール消毒では効果がないので、塩素系消毒剤(市販の台所用漂白剤や哺乳瓶消毒液)又は煮沸(85℃以上で1分以上加熱)にて消毒しましょう（＊塩素系消毒剤は水5ℓに対してキャップ1杯を目安に希釈し使用しましょう）

なお、下痢やおう吐がひどい場合、脱水症状を起こすこともありますので、水分補給に努めるとともに、早めに医療機関を受診してください。（特に乳幼児や高齢者には注意が必要です）

熊本県厚生連診療所　所長　粟津　雄一郎
TEL：096（328）1083　FAX：096（328）1258